令和４年度第２回野辺地町総合教育会議　会議録

|  |  |
| --- | --- |
| 日　時 | 令和４年１２月１６日（金）　午後１時３０分～午後１５時００分 |
| 場　所 | 中央公民館　ホール |
| 出席者 | （会議構成員）・野村　秀雄　（町長）・江刺家　和夫（副町長）・新渡　幹夫　（教育長）・林　　　亨　（教育委員）　・野坂　幸子（教育委員）・杉山　道彦　（教育委員）　・亀田　小織（教育委員）（町内学校）・木村　典克　（野辺地小学校　校長）　・眞石　卓生　（若葉小学校　校長）・小原　操　　（馬門小学校　校長）　　・楢󠄀舘　満　　（野辺地中学校　校長）・坪　宏至　　（青森県立野辺地高等学校　校長）・迫　祐子　　（八戸学院野辺地西高等学校　教頭）（教育委員会事務局）・冨吉　卓弥　（学校教育課　課長）　　・中野　良喜（学校教育課指導室　室長）・五十嵐　洋介（社会教育・スポーツ課　課長　兼　中央公民館等館長）・二ツ森　知貴（中央公民館等　館長補佐）・飯田　満　　（学校教育課　課長補佐）・米内山　周大（社会教育・スポーツ課　主幹）・藤谷　俊徳　（学校教育課　総括主査）　　　　　　　　　　　　　（敬称略） |
| 欠席者 | なし |
| 司会進行 | 教育委員会事務局　（学校教育課　藤谷） |
| 内容 | 町長挨拶案　　件**１．令和５年度当初予算要求重点事業について**■冨吉学校教育課長、五十嵐社会教育・スポーツ課長兼中央公民館等館長、二ツ森中央公民館等館長補佐から、令和５年度当初予算要求重点事業について説明した。（会議資料ｐ１～ｐ６参照）【教育長から小中学校長に質問】スクールサポーターは足りているか。（学校長回答）野辺地中、野辺地小、若葉小校長・・・足りていない。馬門小校長・・・人数は足りているが、勤務時間を長くしてほしい。子どもたちが帰る前に勤務時間が終わってしまう。**２．学校の現状と課題について**■各小・中学校長から、学校の現状と課題について説明した。（会議資料ｐ７～ｐ１０参照）■中野指導室長から、学校訪問等を通して感じた各学校の状況について次のように説明された。* + 今年度の学校訪問は，コロナ感染症の感染状況が収まらない状況ではありますが，昨年度に引き続き１学期の計画訪問から参観授業ありの指導・助言を上北教育事務所の応援をいただきながら，実施することができました。内容に関しましても，一部の議員の方々にも視察・説明させていただきましたが，今年度も児童生徒全員に配布されたタブレットを活用し，調べ学習，解答の保存・提出，発表等にも有効に活用していた授業が多数見られました。

要請訪問に関しては，小学校においては，学級担任全員が提案授業を行い，さらに今年度は指導検討も一緒に行うことができました。訪問回数が昨年度より２倍から３倍に増え，逆に負担をかけることになったかもしれませんが，日々の教材研究，授業改善という意味におきましては，着実に向上している場面が多数見られました。中学校におきましては，教員同士における参観授業の回数を増やし，相互にアドバイスし合うというスタイルを実践しておりました。研修の日常化という意味においては有意義な取組であったのではないかと思います。来年度は北地区学習指導研修会で，野辺地小学校が発表校となっております。今年度から３人の助言者を招いて，試行錯誤を重ねながら，日々の授業改善に励んでいるところです。* **【知的面(学習指導関係)】**

各種学力検査については、全国（中３・小６）・県（中２・小５）・ＣＲＴ（全学年）等の結果では，各学校，学年，教科間でやや差異は見られるものの，補充授業，授業体制，長期休業中の学習会等，各校で工夫した対応をとっていただいていることもあり，全国・県平均程度，それ以上の成績となっております。授業改善については、今年度は意図的な適用問題の実施をお願いしてまいりました。今後は児童生徒の授業への参加頻度をいかに上げていくかという点も考慮し，指導室としても特に，若い先生方向けの研修会を定期的に今後も実施していく予定です。校内研修については、各学校で課題を挙げていただいておりますので，その問題点（実情）に即したもの，また，当町で掲げています学校教育の方針と重点を意識して校内研修を計画していただき，日々の授業実践に結びつくものをお願いしたいと思います。* **【徳育面(生徒指導関係)】**

いじめへの対応としては、軽微な内容に対してもいじめとして捉え，早期対応に尽力されていると思います。ゲーム，ＳＮＳに起因するトラブルも増えておりますので，迅速な対応，保護者への啓発活動等，引き続き，よろしくお願いいたします。不登校(傾向)対応としては、町の教育相談室，ＳＣ，ＳＳＷと連携しながら対応に努めていますが，全国，全県的にも増加傾向にあります。野辺地町も例外ではなく，特に最近は家庭環境・保護者に起因する場合が多く，学校だけでは対応が困難な場合もあります。今後はさらに関係機関と連携しながら，改善を図っていきたいと思います。* **【体育面(教科・健康教育関係)】**

体力づくり等については、各校で実情に合わせた種目等を実施し，体力向上に努めています。今後も体力テスト等を１つの基準として，落ちている能力の向上に努めていただきたいと思っております。生活習慣については、ゲーム使用時間等による睡眠不足，生活習慣の乱れ等が増加しておりますので今後も保護者への協力を要請しながら，対応方，よろしくお願いいたします。**３．校長会からの要望**■校長会楢󠄀舘会長（野中校長）から、校長会からの要望について説明した。（会議資料ｐ１１参照）【質疑応答】　　林委員：馬門小学校との相互の授業や行事と記載があるが、どのようなことを行ったのか。　　眞石校長：校外学習、宿泊学習、修学旅行は以前から一緒に行っていたのを継続していましたし、１１月１３日に１・２年生が生活科の授業を２～５時間目まで一緒に受けて、給食を一緒に食べたりした。３～６年生については検討中。ＰＴＡのフェスティバルについても、馬門小の家庭にも案内をして、実際来てくれた人もいた。**４．町内高校の現状**■野辺地高校、野辺地西高校、両校の状況について以下のように説明いただいた。【野辺地高校】現在学級数は各学年２クラスで、計６クラスとなっている。本校の特徴であるコース制度を維持したかったが、人数が少なくなってきたので、令和４年度入学生からは、就職対応のⅠ型と進学対応のⅡ型とコンパクトにまとめる学年編制とすることとしました。学校の特徴としては今年９７周年を迎えます。文武両道をモットーに、部活動ではスキー部やハンドボール部が２枚看板で、県大会等で好成績を収めています。また、公務員試験対策講座の開講や資格取得のための担当教員による放課後特別指導など、就職対策にも積極的に取り組んでおります。卒業後の進路状況については、進学が３９名、就職が３２名、その他２名となっていて、今年度卒業予定者については、速報ですが、進学についてはほぼ決まり、就職については全員決まりました。特色ある教育活動については、県の事業である、「令和４年度高校生の就職総合プロジェクト事業『キャリア形成講座・研修会』」を活用し、公務員希望者を対象とした公務員セミナーや、就職希望者全員を対象としたＳＰＩセミナーを２日間実施しました。また、「令和４年度進学力を高める高校支援事業(進学力パワーアッププログラム)」を活用し、１学年全員の弘前大学見学会、ＰＴＡ進路研修として県南地方の専門学校の見学会を企画し、生徒の進学意識の向上と、学生生活に関する理解の深化を図りました。また、行政機関や商工会青年部などの協力を得ながら「総合的な学習の時間」や「研究課題」において、地域社会が抱える課題の解決に向けた探究的な活動に重点的に取り組み、地域を愛する人財をつくり、最終的には地域に貢献できるような生徒を育成したいと思っています。最後に、本校が町から避難所の指定を受けたこともあり、県からも防災教育を行ってくださいとのことだったので、町の防災管財課と一般社団法人「男女共同参画地域みらいねっと」から講師を招いて、４回にわたって防災教育を行いました。９月には実際に避難所開設を生徒たちが実際に体験しました。【野辺地西高校】野辺地町からは夏と冬の高校生短期講座、部活動に関しては人財育成助成金という多大な支援をいただき、ありがとうございます。おかげさまでサッカー部は県選手権大会の決勝で青森山田高校に敗れたが、応援いただきありがとうございました。勉強の方ですが、もともと実業高校という色合いが強い学校でしたが、進学の方にも力を入れていて、今年初めて国立大学に1名合格という実績が出ました。また、スポーツ関係ではありますが、推薦入試で合格者が多数出ています。進路状況としては、３月卒業予定者７７名の内、進学希望者４０名、就職希望者が３７名となっています。就職希望者についてはほぼ決まっていて、３７名の内、１７名は公務員志望となっています。また、進学希望者については４年制大学を２４名希望しておりまして、ほぼ内定している状況です。教育活動については、今年度１２月に全国産業教育フェア青森大会において、野辺地町の紹介ということで、常夜燈レプリカの作成や、オリジナルどら焼き、帆立最中を作って販売しました。このような活動が、生徒にとって良い体験になったのではないかと思います。また、この後１２月に青森県の総合学科の高校の発表会が開催されます。今年度は葉つきこかぶについての研究を発表する予定となっております。教育長から副町長から町長から閉　　　会 |